



医局だより

聖路加国際病院 ブレストセンター長
山内 英子

聖路加国際病院ブレストセンターは、前ブレストセンター長の中村清吾先生(現昭和大学乳腺内分泌外科教授)によって、乳がんの患者さんに対して全人的なケアを提供する場として2005年に創設されました。早くからチーム医療を取り入れ、腫瘍内科、放射線診断科、放射線腫瘍科、形成外科等と協力しMultidisciplinaryな治療を実現し、近年では、乳がん専門看護師や遺伝子診療を行う看護師、カウンセラー、薬剤師、ソーシャルワーカーなど他職種との連携を行い、乳がんと診断された患者さんやその家族の不安を少しでも減らすことを目指した診療を行っております。

2015年にブレストセンターが10周年を迎えました、

時を同じくして、初代ブレストセンター長である中村清吾先生が昭和大学に移られ、私、山内英子はその後を引き継がせていただきました。故日野原重明先生から贈られた「慈しみの心にもちたブレストセンターを一同の協力で実現しよう」という言葉を胸に“TEAM” <Talent, Encouragement, Aim, Move> 「それぞれの才能を尊重し、お互い励ましあい、同じ目標に向かってすすんでいく」ことをミッションとして、

さらなる「チーム医療」の実践に努めています。

現在は年間約900名の乳がんと診断された患者さんと一緒に乳癌治療の道を歩ませていただいております、2018年にはセンター開設通算10,000人の新たに乳がんと診断された方々の手術を担当させていただく節目を迎えました。その数ぶんの出会いがあり、時には別れもあり。そのようななかで、今一度、お一人おひとりとの出会い・心とこころのふれあいを思い起こすと

ともに、それを支えてくださった皆さまに心よりの感謝をお伝し、「今まで患者さんから学んだこと」をさらにどう活かしていくべきかを、さらなる使命を持って振り返る時とさせていただきます(写真はその時



のものです)。

引き続き、他の診療科との連携も図りながら、妊娠期乳がんの診断治療や妊孕性の温存、また遺伝性疾患としての乳がんの診断治療などさらなるチーム医療の発展を目指しております。また、患者さんのサバイバーシップの研究にも力を入れ、患者さんの就労支援のための「社会保険労務士とのチーム医療」や患者さんのアピアランスのための「地域的美容室やメイクの専門

医局だより

家とのチーム医療」、術後の患者さんの再発防止のための「運動と体重コントロールのケア」など患者さんのニーズに応え、医療現場のみではなく社会とつながるチーム医療を提供しております。臨床研究に関しても、一人一人が日々の患者さんの診療の中で得られたクリニカルクエスチョンを解明し、少しでも患者さんに還元することを目標としております。

「キリスト教の愛の心が 人の悩みを救うために働けば 苦しみは消えて その人は生まれ変わったようになる この偉大な愛の力を だれもがすぐわかるように 計画されてできた生きた有機体がこの病院である」 聖路加国際病院の理念で

す。この理念にあるようにそれぞれがそれぞれの良さを活かし、愛の力を持って悩む人々のために提供していく、ブレストセンターは、その生きた有機体の具現化の1つとしてこれからもあり続けたいと思っています。最後になりましたが、ブレストセンターを支えてくれている一人一人のスタッフ、私共に学び成長の機会を与えてくださっている患者さん、そして私たちを温かく見守ってくれている病院また学会の皆様方に感謝を申し上げます。これからも学び続け、成長し続けるブレストセンターでありたいと思います。聖路加ブレストセンターチームに、引き続きのご指導・ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。